時事新報

支那論（前號の續き）

近來我輩の聞く所によるに支那在廷の政治家中その壯年の人々と號れも既に鎖攘れ舊主義に反對して開國交際西洋の文明を輸入するに為らざれば邦家の獨立を保つ能はざると信じ頻りに舊物の破壞を主張する由あるを其他の一極には隨分頑固なる老人多くして依然たる中華自大の尊嚴を維持し一切更新の政を悅ばざる部分れ勢力も亦頗んあれば國論は恰かも左右に分れ謂ゆる保守改進の軋轢は兩端號れとも決せずして其中途に漂泊するものゝ如し斯くの如く老論少論相分れて偖て彼の惇親王李鴻章或は曾紀澤の如き有力の政治家はうの主義進退と如何にせべ兆やと云ふに此等の人は無論改進家なりとは雖ども在朝比肩の老論黨を敵手にして之を怒らせては愛親覺羅氏の廣堂に和平を破りて如何ある危險のあらんも知る可からず左ればとて之を恐れて少論黨と馴けんか開國の事業成らざるを如何にせん斯うる中間に挾まれたる惇李諸氏の苦心誠に以て察すべ兆の次第あれとも亦皆な老練家のことなれば如才あるその雙方を攝めて老壯歩み合ひの間に廣堂の國是を執り之を爲すの手始めには老論黨にも判り易き有形の事物を段々に輸入するの方便を運らし軍艦大砲れ如き精鋭の懸隔一目して瞭然なれば老論黨も亦兵制の改革には不同意を唱へず引續て電信の効用も明白蔽ふ可からずして其成跡は中央政權の鞏固を致して尾大振いざるの政弊も改まりたるとなれば老黨の人も只々之を目擊して驚服の外あし斯く段々と有形事物の改良進歩あるに付けては次きは即ち鐵道論にして是れも兩三年以前までい在朝の頑固黨に於て頻りに不服と唱へ今を距る八九年前劉銘傳が有名ある鐵道論の奏議の如きも廣堂の議論沸騰、一も二もなく棄却せられさるゑ時勢變遷の速かある今日には老黨も飜てこれに賛成するの勢ひにて北京天津間の鐵道は既ゑ其工事に着手したり尙は之に權で追々線路を延ばすに至らば其効驗の顯はるゝは的面にて老黨の人も只管これに感服するの外ある可からず、有形の事物斯くて一尺を進むれば少論黨は又一尺の勢力を伸ばしその理にして支那れ改進その歩を進るに都合宜し兒こと推して知る可し蓋し電信線の落成にて尙ほ且つ中央政府に非常の勢力を增したる次第なれば之に加ふるゑ鐵道と以てもる其効驗の偉ある固より論を俟たず電信の用は唯政府の命を地方に傳へて地方れ動靜を速かに知るまでのことなれとも鐵道は實物の運輸と司どり官吏の派出交代より一朝事あれと兵士の採出しに至るまでも意の如くあらざるはなし即ち鐵道は電信の用を實にそるものにして中央れ權力盛大ならざらんと欲すも得べからず又鐵道運輸の利益は國庫の歳入を增加するに在り今日の處ゑては中央政府の財用常に足らずして當局者もこれに苦しむ樣子なれとも元來支那は貧國あらずして富の淵源豐かにして然して政府獨り貧するは地方官が公稅を私するの甚ざしきに因るゑと雖れもなきの事實にして人民の手より出す所は多額なるも地方大小の吏人の爲めに私せられて正映國庫の收入は僅々に過ぎず然るに今鐵道の敷設次第に延長するに從て次第に地方官を拘束するとき之稅權漸く政府に歸し遂ゑは全國れ權柄を中央の一手ゑ握りて復た財用の不足を嘆へざるの日ある可し然るに昨今に至りてい西洋事物の採用も有形の範圍を脫えて追々無形の文明に進行するの事相なりと申しは今回支那政府にて吏戶兵刑工の六部衙門より總員六十名許りを歐米各國に派遣するの議に決し其吏員の撰擧次第いよ〳〵出發あるべしと云ふが如き實に東洋近來の事變なりと稱ま

可あらん三四年以前には一旦海外に遊學せし兆たる一百餘名れ書生を再考の上不都合なりとて悉く呼び戻しゑる同一の其政府が今は顯要の人々を文明視察のためにとて態々西洋に派遣するは前半後半相對して雲泥れ變化にあらずや今回の撰に與かる人々は定めて壯年有爲の人物なるべく中ゑ老論黨のものゝあらんと雖ども兎に角に西洋ゑ漫遊ゑたらばうの主義精神も多少に變動す可ければ支那文明の熱度は今後倍々嚴するものと視て間違ひなかる可し尙は是れよりも驚くべきは科擧の目錄に洋算理學の二科を加へて遠からず之を實行するといふの一事なり古來科擧取士の法に關しては弊害多端にして人材の養成を害したるゑ左るとゑがら之が爲めに學問教育と全國に布きたるの功用は著大なりと謂はざるべからず喩えば我日本に於て洋學を知らざるものは一切官吏に登庸せずとの布令を出したらば如何なる影響あるべきや洋學を知らざる人々の不幸と不幸なれとも日本全國ゑ洋學れ流行を來して世れ文明を促すの利益い非常なる可し今度支那政府が科擧改正の一事はまれと同一れ結果を奏するものゑして從來四書六經の外に何等の稽古もなき學生輩の迷惑は勿論あらんあれども西洋の文明と支那に輸入をるれ捷法はこれゑ若くものなかるべし故に此法にして老論黨れ妨害と受けず幸に決行を得るに至らばその將來の成跡殆んど測